

「V＋着」と＜V＋テイル＞の対照研究(七)

時 衛国

Abstract: This study concerns the semantic functions and grammatical features of 'ZHE' and 'TE IRU' and is an attempt to investigate their similarities and differences. 'ZHE' is used for adnominal clauses to relate to locations, but is also acceptable if the the location is not stated explicitly. Both binomial and polynomial use is possible, including simultaneous actions. In addition, it can also indicate both dynamic and static states in a 'modifier' + 'modified' structure. In contrast, 'TE IRU' is not used to relate to locations and only allows binomial use with relation to the following clause in a 'modifier' + 'modified' structure.

キーワード：存在表現、同時進行、状態持続、動作持続

1. はじめに

本研究は、中国語の「V＋着」と日本語の＜V＋テイル＞¹⁾の意味機能などについて、存在表現における存在場所の連体修飾節の受容の有無、同時進行の表現と持続表現との関係、いわゆる付帯状況における表現を中心に考察しようとするものである。

本研究では、以下の三つの課題を中心に取り上げることとする。

- ①存在表現において、存在場所を表わす位置に連体修飾節が許容されるかどうか。それはなぜなのか。
- ②同時進行の場合、どのような制限を受けているのか、幾つかの動作の同時進行が許容されるのか。

- ③「状態の持続+動作の持続」という表現の場合、この二語はどのように用いられ、どのような共通点と相違点があるのか、そして、文法的にはそれぞれがどのような特徴を持っているのか。

たとえば、

- (1) 他的头上戴着帽子。(彼は頭に帽子をかぶっている)²⁾
- (2) *a 彼の頭に帽子をかぶっている。
b 彼は頭に帽子をかぶっている。
- (3) 我们一边喝着酒、一边聊着天、一边赏着美景、~。(われわれはお酒を飲んだり雑談をしたりしながら、美しい景色を觀賞している~)(2012年天目山, 宁波随意游 蚂蜂窝) <http://www.mafengwo.cn/i/942427.html>
- (4) *a われわれは酒を飲みながら、雑談をしながら、美しい景色を觀賞している。
b われわれは酒を飲んだり雑談をしたりしながら、美しい景色を觀賞している。
- (5) 站着看着电视。(立ったままテレビを見ている)
- (6) ??a 立っているまま、テレビを見ている。
b 立ったまま、テレビを見ている。

存在表現において存在場所を表わす位置に、連体修飾節が許容されるかどうかという点では、二語は大きく異なっている。「着」は許容されているが、<テイル>は許容されない。そして、同時進行の場合、「着」は二つかそれ以上の動作の同時進行が許容されているのに対し、<テイル>は二つの動作の同時進行しか許容されない。一方、「状態の持続+動作の持続」という表現の場合、「着」は状態の持続と動作の持続のいずれも表現することができるが、<テイル>は動作の持続しか表現することができない。

この二語は文法的にはそれぞれがどのような特徴を持っているのか。本研究はこれまでの先行研究を踏まえて、対照研究の立場から考察し、両言語の共通点と相違点を究明することとする。

2. 先行研究

「着」については、李临定(1985)(1986)、陈平(1988)、房玉清(1992)、徐丹(1992)、戴耀晶(1994)(1997)、菅谷有子(1996)、刘一之(2001)、吴卸耀(2006)、王学群(2007)、高橋弥守彦(2007)、丸尾誠(2007)、张黎(2012)、三宅登之(2013)、洪安澜(2014)などの研究がある³⁾。特に、存在を表わす「場所語＋V＋着＋目的語」という構造については、各氏の研究の蓄積がある⁴⁾。しかし、房玉清(1992)では①存在表現における存在場所のところに連体修飾節が許容されるかどうかについては触れているが、あまり説明はされていない。②と③については三宅登之(2005)、张岩红(2008)、豊嶋裕子(2010)などがある。ただし、本研究の課題についての記述は見当たらず、まだ再考の余地の残される論考もある。従って、これらの研究を踏まえて考察することが重要だと考えている。

<テイル>については奥田靖雄(1977)、寺村秀雄(1982)、仁田義雄(1982)、工藤真由美(1995)、中嶋孝幸(1999)などの研究がある。これらの研究は主として「主語＋目的語＋V＋テイル」という能動表現について考察しており、参考になるものであるが、「場所語＋対象語＋V＋テイル」における「(連体修飾語＋)場所語」という形式についてはあまり述べられていない。②と③については、三宅知宏(1996)などがある。しかし、なぜ「動詞＋テイルママ」という形がないのかについて言及されていない。本研究ではこれらの先行研究を踏まえて、上記の課題について追究し、対照研究することによって、両言語の各表現形式の共通点と相違点を明らかにし、相互の関連性・表現の論理性などの視点から考察することとする。

3. 分析

3. 1. 存在場所における連体修飾節の受容

中国語と日本語は存在場所における連体修飾節を受容するかどうかという点では大きく異なっている。中国語では存在場所における連体修飾節を受容することができる。一方、日本語では存在場所における連体修飾節を受容することができない。たとえば、

- (7) 他的头上戴着帽子。(彼は頭に帽子をかぶっている) <=(1)>
- (8) 他头上戴着帽子。(彼は頭に帽子をかぶっている)
- (9) 他戴着帽子。(彼は帽子をかぶっている)
- (10) *彼の頭には帽子をかぶっている。
- (11) *彼の頭に帽子をかぶっている。 <=(2)a>
- (12) 彼は頭に帽子をかぶっている。

中国語では存在場所における連体修飾節を受容することができるという点では、共通性があると言える。(7)の他、また、「他的身上穿着毛衣(彼はセーターを着ている)」「他的嘴上叼着香烟(彼は口に煙草を銜えている)」「他的肩上扛着行李(彼は肩に荷物を背負っている)」などのように、連体修飾節を存在場所において受容することができるという点では、大きな文法的機能と考えられる。この中における「他的头上(彼の頭(に))」「他的身上(彼の体(に))」「他的嘴上(彼の口元(に))」「他的肩上(彼の肩(に))」などは、いずれも「人称代名詞+助詞(的)+名詞」という構造であり、いわゆる連体修飾節を成している。存在表現における存在場所として用いられ、存在の状態と存在の対象の関わる場所を表わすことになる。

また、「人称代名詞+助詞(的)+名詞」という構造における助詞「的」が省略されても許容される。たとえば、(8)の他、「他身上穿着毛衣(彼はセーターを着ている)」「他嘴上叼着香烟(彼は口に煙草を銜えている)」「他肩上扛着行李(彼は肩に荷物を背負っている)」などのように表現することができる。この場合、助詞「的」は省略されているが、連体修飾節の形成を妨げることはない。また、「他头上(彼の頭(に))」「他嘴里(彼の口の中(に))」「他身上(彼の体(に))」「他嘴上(彼の口元(に))」「他肩上(彼の肩(に))」などのように、存在場所を表わすという点においても、上記の助詞「的」が用いられる場合とは同じである。これは中国語は孤立語として語順による文法関係を表わすからであり、「修飾語+被修飾語」という語順によって連体修飾関係を表わすからと考えられる。つまり、助詞「的」が用いられなくても、「修飾語+被修飾語」という構造は成立するという点である。

一方、被修飾語としての名詞(「头上(頭(に))」「嘴里(口の中(に))」「身上(体

(に))」「嘴上(口元(に))」「肩上(肩(に))」は体の一部を表わすものとして存在場所を表わすこともできるし、また、人称による特定も受容し、その人称を表わす名詞と共に存在場所を表現することもできる。存在表現において、体の一部を表わすこれらの名詞はいずれも、存在場所を表わすことになるため、構成的にも不可欠な存在と考えられる。

このように、中国語では存在場所を表わす部分に連体修飾節の使用が許容されている。存在場所を明確にし、存在の状態と対象物がかかる空間範囲として強調することができるため、存在表現は多様化することができる。中国語の存在表現は、所属関係を鮮明に表現することによって、多様化しており、変化に富むものと考えられる。

日本語では、(10)(11)のように、体の一部を表わす名詞は、「彼の頭(に/には)」「彼の体(に/には)」「彼の口元(に/には)」「彼の肩(に/には)」などのように、連体修飾節を作ることができるが、存在表現の場合は、「彼の体にはセーターを着ている」「彼の口元には煙草を銜えている」「彼の肩には荷物を背負っている」などのように、不適格である。なぜなら、主題部における体の一部を表わす成分と述語部とはつり合いができないからである。述語部に来る動詞は他動詞として目的語も取っているため、主題部に言語主体を表わす成分が必要になり、それで、<ニ><ニハ>ではなく、<ハ>を要求することになる。

「かぶる」「着る」「穿く」⁵⁾「巻く」などの動詞は、動作の進行を表わすことも、状態の結果を表わすこともできるが、存在表現の場合は、ヲ格を取っているとはいえ、状態の結果を表わすことになり、状態の存在を描写することになる。たとえば、彼は帽子をかぶっているという場合は、帽子を頭に付けたままの状態を描写し、それ自体の意味を持って状態の存在を表わすことができる。また、存在の場所を表わす場合、「頭(に)」「口(に)」「体(に)」「口元(に)」「首(に)」「肩(に)」などは、「頭に帽子をかぶっている」「口に煙草を銜えている」「首にマフラーを巻いている」のように、用いることができる。しかし、連体修飾節は受容することができない。

注意すべきことは、「彼の頭に帽子をかぶせてあげる」「彼の首にマフラーを巻いてあげる」などのように、「彼の頭」「彼の首」という連体修飾節が作れないわけではないということである。ただし、<テイル>が用いられる場合は、

状態を描写しており、しかも、静的状態の描写に用いられているため、主語や授与格に制約をもたらすことになる。〈テイル〉は動的状態の持続と静的状態の持続をいずれも表わすことができる。その一方、「かぶる」「着る」「穿く」「巻く」のような種類の動詞も、〈テイル〉を受けると、動的状態の持続と静的状態の持続も表現することができる。しかし、存在表現の場合は、静的状態の持続を表わすことになり、動的状態の持続を表わすわけではない。つまり、これらの動詞は他動詞としてヲ格を取るが、意味的には動的状態も静的状態も表現できる。そして、〈テイル〉を受けると、その動的状態を表わす意味よりも、その静的状態を表わす側面は強調されることになり、存在表現として、静的状態の持続の描写にも用いることができるのである。この場合はヲ格を取っているため、主語や授与格への要求も文法的には必要になってくるのである。

具体的に言うと、「彼の頭には帽子をかぶっている」「彼の頭に帽子をかぶっている」のような表現になると、「彼の頭には」「彼の頭に」という存在範囲を表わす語句は、連体修飾語を持っているため、意味的には特定され、体の一部という意味を表わす語句としては、「帽子をかぶっている」という「目的語＋動詞述語」という構造とは相容れられない。「彼の頭には」「彼の頭に」は存在範囲を表わすのに対し、「帽子をかぶっている」という「目的語＋動詞述語」は、動的状態の描写にも静的状態の描写にも用いられ、この場合は静的状態の描写としても、その動的状態を表わす意味的側面と表裏を成すため、存在範囲を表わす「彼の頭には」「彼の頭に」とは矛盾してしまう。

そして、「彼は頭に帽子をかぶっている」「彼は帽子をかぶっている」「頭に帽子をかぶっている」のように、所定の形式によって表わされる時、いずれも適格である。「彼は頭に帽子をかぶっている」の場合は、もし、「彼は只今頭に帽子をかぶっている」のように「只今」という修飾語を入れると、動的状態を表わすと考えられるが、動作完了の結果としての静的状態を表わすと考えた方が常識だと思われる。即ち、彼は頭に帽子をかぶってしまったままの状態を表わすということである。この場合、「彼は」は、「帽子をかぶっている」という動作の主体、「頭に」はその帽子がかぶられた場所を示し、静的状態の持続を表現していると考えられる。前述の通り、この表現形式は動的状態の持続も

表わせるが、「かぶる」「着る」「穿く」「巻く」などの動詞は、動的状态と静的状態をいずれも表わす。修飾語が来る場合は、動的状态を表わすことが多いが、修飾語が来ない場合は、動的状态より静的状態を表わすことが多いと考えられる。

3. 2. 同時進行における並行性と一括性

同時進行を表わす場合は、中国語では「一边」という副詞を使って、「一边+動詞，一边+動詞(動詞+しながら、動詞)」という構造を取り、「一边吃饭，一边看电视(食事をしながらテレビを見る)」「一边喝茶，一边聊天(お茶を飲みながら雑談する)」などのように表現する。一方、日本語では<ナガラ>という接続助詞を使って、「動詞(連用形)+ナガラ+動詞」という構造を取り、「ご飯を食べながらテレビを見る」「お茶を飲みながら雑談する」などのように表現する。

- (13) 一边吃着饭，一边看着电视。(ご飯を食べながらテレビを見ている)
- (14) 一边吃着饭，一边看电视。(ご飯を食べながらテレビを見ている)
- (15) 一边吃饭，一边看着电视。(ご飯を食べながらテレビを見ている)
- (16) ご飯を食べながらテレビを見ている。
- (17) *ご飯を食べていながらテレビを見ている。
- (18) *ご飯を食べていながらテレビを見る。

「着」は同時進行に用いられる場合、並行して行われる二つの動作のいずれも捉えることができる。また、二つの動作の前項だけか或いは後項だけかという片方だけを捉えることもできる。(13)では、「ご飯を食べる」という前項の動作と「テレビを見る」という後項の動作が同じ時間帯において並行して持続していることを表現している。「着」はこの二つの動作の持続している動的状态を鮮明に描写することができる。この場合は前項描写と後項描写の機能を共に果たしていると考えられる。一方、(14)では、「ご飯を食べる」という前項の動作だけを捉えており、「テレビを見る」という後項の動作は捉えていない。即ち、前項の動作を持続している動的状态として描写し、後項の動作については持続しているかどうかを視野に入れられないということである。この

場合は前項描写の機能を果たしている。そのため、後項の動作の動的状態については浮き彫りにしていないと言える。ところが、(15)では、「着」は「ご飯を食べる」という前項の動作を視野に入れておらず、「テレビを見る」という後項の動作を捉えており、その動的状態を描写していると見られる。この場合は後項描写の機能を果たしている。

「着」は二つの動作の同時進行のほか、又、三つかそれ以上の動作の同時進行も表現することができる。たとえば、

- (19) 我们一边喝着酒、一边聊着天、一边赏着美景、～。(われわれはお酒を飲んだり雑談をしたりしながら、美しい景色を觀賞している～)
<=(3)>

「着」の三つの動作の同時進行については、《現代汉语八百词》(1984)、张岩红(2006)では触れているが、三宅登之(2004)、豊嶋裕子(2008)では触れていない。中国語では多項の動作の同時進行の描写が許容されることは大きな文法的特徴と言える。

このように、同時進行の表現においては、「着」は前項描写と後項描写の機能と前項描写のみの機能あるいは後項描写のみの機能をいずれも持っている。前項描写と後項描写の機能は、並行して行われている二つの動作を安定した動的状態として捉え、いずれにも重点を置いて前項と後項を強調することができる。前項と後項における動的状態の把握に均衡を保っていると考えられる。そして、前項のみの機能と後項のみの機能は、それぞれの重点が異なっているため、片方の動的状態のみを浮かび上がらせるという働きを果たしている。そして、二つの動的状態を並行して捉えるのではなく、片方の動的状態を描写するのみに止まり、両方の動的状態への並行的描写には目を付けないのである。さらには、二項の動作の把握に止まるのではなく、多項の動作の把握もできるという点では、中国語の描写の捉え方の広がりとも理解される。

<テイル>は同時進行に用いられる場合、並行して行われる動作の後項だけを捉え、後項と共に前項を捉えることができない。また、前項だけを捉えることもできない。たとえば、(16)では、「ご飯を食べる」という前項と「テレ

「テレビを見る」という後項だが、接続助詞の〈ナガラ〉によって二つの動作を結び付け、そして、後項に〈テイル〉をつけることによって、動的状態の持続を描写することになる。この場合は、後項だけに〈テイル〉の使用が許容されているが、同時進行の表現構造から言えば、前項と後項の動的状態を〈テイル〉によって一括して捉え、「ご飯を食べる」という動的状態も「テレビを見る」という動的状態も持続していることを表現している⁶⁾。

日本語では、助動詞や文法的要素が用言の後に用いられることもあり、文末にくればくるほど、文法の重要度は高くなり、そのため、後の文法的要素が前の文法的要素を左右することにもなる。そして、同時進行の場合、「動詞＋ナガラ＋動詞＋テイル」という構造について、前項が後項を修飾すると共に、それによって支配されていると考えられる。即ち、前項としての動詞が後項の〈テイル〉によって、前項も後項も並行して行われているということを表現しているということである。この場合は文法的構造上は「着」と異なるが、しかし、後項のみ捉えることによって同時進行も表わすことができるという点では、「着」にきわめて近いと言えよう。そして、後項のみで一括して同時進行を表現することができるのが〈テイル〉の特徴だと考えられる。

ところが、〈テイル〉には、なぜ前項を捉える機能が付与されていないのか。たとえば、(17)では、前項と後項は〈テイル〉を受けているが、しかし、同時進行を表現するセンテンスとしては成り立たない。一つは前述の通り、後項による前項への一括的支配という原理が働き、〈テイル〉によって前項と後項を支配することができるからである。もう一つは、〈ナガラ〉は接続助詞として、「知っていながら答えない」(『デジタル大辞泉』)「注意していながら間違えた」(『日中辞典』)のように、内容の矛盾する二つの事柄を表わす時には、前項においても〈テイル〉と共起できるが、同時進行を表わす時には許容されない。したがって、日本語では、中国語における前項と後項両方を捉える機能が付与されておらず、後項のみによる機能が付与され、それによって、同時進行を表わすことになる。この点では中国語と異なっている。

また(18)における前項は〈テイル〉と共起し、後項はそれと共起しない場合であっても、成り立たない。日本語では、後項による一括的支配によって、同時進行を表わすことになり、後項が進行を表わさない場合は、前項の進行

も成り立たないのである。〈ナガラ〉という接続助詞は二つの動作を繋ぎ、高い緊密度を保っている。それゆえ、後項による一括的支配が可能になる。しかし一方、前項の〈テイル〉との共起は同時進行の場合は許容されない。したがって、日本語では前項のみを捉える機能も付与されないのである。

また、日本語では、〈ナガラ〉は二項の同時進行だけに止まり、三項かそれ以上の同時進行を表現することができない。そのため、〈テイル〉は二項の同時進行を捉えるだけに止まり、三項以上の同時進行を捉えることができない。たとえば、

- (20) ??私達は飲みながら雑談しながら美しい景色を観賞している。
- (21) 私達は飲みながら雑談したり、美しい景色を観賞している。
- (22) 私達は飲んだり雑談したりしながら美しい景色を観賞している。
- (23) 私達は飲んだり雑談したり美しい景色を観賞したり魚釣りをしたりしながら、友人と通話している。

〈ナガラ〉は(20)では「飲む」「雑談」「美しい景色を観賞する」という三つの動作を並行的に捉えることができない。(21)のように「飲む」という動作を前項として、「雑談する/美しい景色を観賞する」という動作をまとめて後項として並立させるか、あるいは逆に(22)のように、「飲む/雑談する」という二つの動作を一つにして前項として、「美しい景色を観賞する」を後項として並立させるかによって、初めて表現として成立するのである。また、(23)のように、「飲む/雑談する/美しい景色を観賞する/魚釣りをする」という四つの動作を前項として一つにまとめることができれば、〈ナガラ〉はそれらを一括して捉えることができる。とはいえ、前項と後項という二項の同時進行だけしか捉えることができないという文法的機能は変わらない。また、複数の動作を一つにして捉える場合にも、後項によって状態の持続を表現するということがある。

このように同時進行の場合、中国語の「着」は前項と後項のいずれを捉える機能も、前項のみあるいは後項のみを捉える機能も付与され、同時進行における動的状態の各々を描写することができて、表現の並行性・多項の動作への描写の並行性をバランスよく保っている。それに対し日本語の〈テイル〉

は後項による一括的支配の機能のみが果たされ、前項と後項を一括して捉える機能や前項のみを捉える機能は付与されていないため、同時進行における動的状态の捉え方は一定しており、協調性に欠けていると思われる。また、多項の動作を同時に捉えるという文法的機能も付与されていないのである。

3. 3. 「付帯状況」における状態の持続+動作の持続

「着」と<テイル>は、「状態の持続+動作の持続」という構造における「状態の持続」という部分に用いることができるかどうかという点では、大きく異なっている。たとえば、

(24) 站着看电视。(立ったままテレビを見る)

(25) 站着看着电视。(立ったままテレビを見ている)

中国語では、「着」は「状態の持続+動作の持続」という構造における「状態の持続」という部分にも、「動作の持続」という部分にも用いることができる。この構造は、シンタクスから言うと、「修飾語+被修飾語」という構造であり、「状態の持続」という部分は、修飾語として、述語としての「動作の持続」という部分にかかっているものと考えられる。

この構造について、刘一之(2001)では「X 着 V」と呼び、Vの前に来る動詞は静的状態を表わすものも動的状态を表わすものもあるとしている(P133-135)。本研究では静的状態を表わすものだけを取り上げる。しかし、氏の「Vの前に来る動詞」というのは、非常にあいまいなものであり、たとえば、「着」はいずれも(24)のように「站」と「看」の前に来ることができる。この点については意識されていないようである。王学群(2007)⁷⁾ではこの種類の動詞を取り上げて述べているが、ただし、Vの後に来る「着」については言及されていない⁸⁾。

(25)では立ったままテレビを見ることを表わし、立ったままという状態の持続を強調している。この中で、「着」は「站」という動詞の持続の状態を描写すると同時に、「站着」の形で「テレビを見る」という動作を修飾している。そして、(25)では立ったままテレビを見ていることを表わし、状態の持続と動作の持続をそれぞれ描写していると考えられる。

このような表現は、他に「坐着看着电视(座ったままテレビを見ている)」「躺着看着书(横になって本を読んでいる)」「蹲着望着远方(蹲ったまま遠くを眺めている)」「跪着哭着(しゃがんだまま泣いている)」「靠着墙站着(壁によって立っている)」などがある。

中国語では「着」は「状態の持続+動作の持続」という構造において、修飾語の部分にも、被修飾語の部分にも用いられ、いずれも状態の持続と動作の持続を描写することができるという点では、大きな文法的特徴と言える。「状態の持続+動作の持続」という構造で持続の描写ができることは、表現の多様化に繋がるものと考えられる。

日本語の<テイル>は、「状態の持続+動作の持続」という構造において、動作の持続には用いることができるが、状態の持続には用いることができない。たとえば、

(26) ??立っているままテレビを見る。

(27) ??立っているままテレビを見ている。

などがそれである。これは日本語では修飾語の部分は開放的ではなく、閉鎖的だからである。「立っている」⁹⁾は状態の持続を表わす表現だが、しかし、(27)では、「テレビを見ている」という被修飾語の前に来ており、それを修飾することになる。この場合は、そのままでは修飾語としての修飾的機能を果たすことができないため、「立ったまま」という形を取る必要がある。そして、「立ったまま」の形を取ることによって、立った状態を表わす修飾語として、「テレビを見ている」という動作に関わっているのである。

なぜ、「立っているまま」の形ではなく、「立ったまま」の形で用いられなくてはならないのかというと、「立っている」は<テイル>を受けているため、開放的な性格を持っていると言える。また、「テレビを見ている」における「見ている」も開放的な性格を持っている。そして、修飾語と被修飾語は共に開放的な形態を取ると、描写の焦点が鮮明でなくなる恐れがある。そのため、被修飾語の部分だけは開放的な形態を取ることになり、修飾語の部分は閉鎖的な形態を取ることになるというわけである。

言い換えれば、<テイル>は動的状態と静的状態の描写に用いられ、線的

な描写とも考えられる。被修飾語の部分に対し線的な描写をし、また、修飾語の部分に対しても線的な描写をすると、どちらが焦点なのかは分からなくなる。ところが、修飾語の部分は「立ったまま」の形を取ると、点的な描写となり、立った状態である動作を行なっていることを表わすようになる。たとえば、

(28) 立ったままテレビを見る。

(29) たったままテレビを見ている。

ここから考えると、修飾語の部分は閉鎖的な性質があるため、「～タママ」の形を取らなくては被修飾語を修飾することができない。一方、被修飾語は具体的な動作・行為を表わし、具体的な描写も求められ、<テイル>によって動的状态の持続を描写することになる。このように、修飾語は被修飾語にかかる成分として副次的なものと考えられる。それに対し、被修飾語は動的状态を表わす成分として主要なものと考えられる。日本語では、「状態の持続＋動作の持続」という構造の場合、主要なものは<テイル>によって描写することができるが、副次的なものはそれによって描写することができないと言える。

この点では日本語は中国語と全く異なっている。中国語では主要なものと副次的なものはいずれも“着”と共起し、修飾語における静的状態の持続も被修飾語における動的状态の持続も描写することができる。主要なものの状態と副次的な状態をそれぞれ描写することは、言語表現の豊富性を意味し、また“着”の意味機能の広がりも示している。それに対し、日本語では、動的状态を表わす動詞述語は表現の中心的位置に置かれ、描写の主要な対象として位置づけることができる。修飾語に立つ副次的なものは表現の周辺的位置に置かれ、描写の主要な対象とはならない。前者は線的状态の持続を描写し、後者は点的状態の持続を描写することになる。この点では、修飾語も線的状态として捉えることができる中国語とは大きく異なっていると言える。

4. まとめ

両言語は、同時進行の後項と動作の持続を表わす場合には、「着」と<テイ

ル>が用いられ、動的状態の持続を描写することができるという点では大体共通しているが、存在場所の部分に来る連体修飾語も許容され、同時進行の前項と修飾語としての状態描写の場合にも用いることができるという点では、中国語は日本語と大きく異なっている。

中国語では、「着」は存在場所の部分に連体修飾節が用いられ、存在場所を明示化する場合も明示化しない場合も許容されるため、存在表現の多様化と具体化は鮮明に表現できる。同時進行の場合、二項に限らず、多項の同時進行も可能であり、しかも、いずれも「着」と共起できることから、二項の場合も多項の場合も同時進行の動作・行為の持続を描写することができるという点では、中国語の同時進行表現の著しい特徴と言えよう。また、「修飾語＋被修飾語」という構造のどの部分にも用いることができるため、状態の持続も動作の持続も捉えることができる。同時進行の場合も「修飾語＋被修飾語」という構造の場合も線的持続を表わすことができるという点においても、中国語の動的状態と静的状態の描写の特徴と考えられ、日本語のそれらと大きく異なっている点と言える。

日本語では存在場所の部分に連体修飾語が受容されておらず、存在表現上硬直化した傾向がみられる。この点では、述語部に来る動詞は他動詞として目的語も取った場合、主題部に言語主体を表わす成分が必要になってくるといふ日本語の特徴が反映され、日本語の論理にかなったものと考えられる。そして、同時進行の場合と「修飾語＋被修飾語」という場合は、後項の持続の描写が許容され、前項の持続の描写は許容されないという点では、中国語と完全に異なっている。言い換えると、前項は点的描写しか許容されず、線的描写は行うことができない。前項は閉鎖的な性格を有するのに対し、後項は開放的な性格を有すると言える。

注

- 1、本研究では中国語の考察語は「 」、日本語の考察語は< >で示す。例文に挙げられた考察語については下線を引く。以下同じ。

- 2、ここに挙げた作例の共起の可否については、中国語は筆者の語感によるものであるが、日本語は日本人話者に実施したアンケート調査の結果によるものである。なお、参考のため、相関の作例に関するデータも取ったので、以下示しておく。参照されたい。
- 3、考察語についての成果は多数あり、ここで一々取り上げる余裕がないので、本研究と関係のある文献だけを紹介する。また、参考文献として挙げられている論文も最小限にした。
- 4、ここでは先行研究を振り返るため、ごく簡単に紹介する。関連の論文については具体的に考察する時に取り上げる。以下同じ。
- 5、仁田(1982)では「着る」「穿く」などの動詞を運動の動詞と変化の動詞として分類している。詳しくは仁田(1982)を参照されたい。
- 6、三宅(2005)ではこの点について言及がある。参照されたい。
- 7、詳しくは王学群(2007)P108 を参照されたい。
- 8、張岩紅(2006)では「一边」と「着」の互換については述べているが、本研究のテーマについてはあまり述べられていない。
- 9、工藤(1982)では、「立つ」「座る」を変化の結果を表わす動詞、そして「飛ぶ」「走る」「歩く」を主体の動きを表わす動詞として分類されている。一方、仁田(1982)では「立つ」「座る」を変化の動詞、そして「飛ぶ」「走る」などを運動の動詞として分類されている。両氏の分類は用語は異なるものの、内容はほぼ同じである。詳しくは両氏の論文を参照されたい。

◎ここに挙げた日本語の例文がセンテンスとして成立するかどうかについて、日本人話者(年齢 18 歳～20 歳、いずれも国立大学の在学学生である)にアンケート調査を実施して判定していただいた。

調査の基準は以下の通りである。日本語として非常に自然だと思うものは<○>、やや不自然な感じがするものの、言わないことはないと思うものは<?>、日本語としては非常に不自然でほとんど言わないと思うものは<??>、日本人であれば、絶対誰も言わないと思うものは<×>と記入するように依頼した。以下それぞれその結果を示す。

- 1、壁では地図が貼られている。〔75人：○1人 ?4人 ??16人 ×54人〕
- 2、壁には地図が貼られている。〔75人：○71人 ?4人 ??0人 ×0人〕
- 3、壁では地図が貼ってある。〔75人：○0人 ?6人 ??16人 ×53人〕
- 4、壁には地図が貼ってある。〔75人：○71人 ?4人 ??0人 ×0人〕
- 5、彼は口には青果を含んでいる。〔75人：○5人 ?25人 ??14人 ×31人〕
- 6、彼の口には青果を含んでいる。〔75人：○13人 ?15人 ??24人×23人〕
- 7、彼は帽子をかぶっている。〔75人：○74人 ?1人 ??0人 ×0人〕
- 8、彼は頭に帽子をかぶっている。〔75人：○50人 ?18人 ??6人 ×1人〕
- 9、彼は頭には帽子をかぶっている。〔75人：○5人 ?26人 ??16人 ×28人〕
- 10、彼の頭には帽子をかぶっている。〔75人：○2人 ?8人 ??21人 ×44人〕
- 11、頭に帽子をかぶっている。〔75人：○55人 ?16人 ??3人 ×1人〕
- 12、彼はマフラーを巻いている。〔75人：○74人 ?1人 ??0人 ×0人〕
- 13、彼は首にマフラーを巻いている。〔75人：○64人 ?8人 ??1人 ×2人〕
- 14、彼の首にはマフラーを巻いている。〔75人：○2人 ?14人??19人×40人〕
- 15、首にマフラーを巻いている。〔75人：○62人 ?8人 ??3人 ×2人〕
- 16、首にはマフラーを巻いている。〔75人：○28人 ?19人 ??11 ×17人〕
- 17、口には青果を含んでいる。〔75人：○35人 ?23人 ??9人 ×8人〕
- 18、口には青果が含まれている。〔75人：○38人 ?22人 ??13人 ×2人〕
- 19、口には青果が含まれてある。〔75人：○6人 ?20人 ??25人 ×24人〕
- 20、口には青果が含んである。〔75人：○19人 ?21人 ??15人 ×20人〕
- 21、彼は口に煙草を銜えている。〔75人：○72人 ?2人 ??1人 ×0人〕
- 22、彼の口に煙草を銜えている。〔75人：○3人 ?19人 ??20人 ×33人〕
- 23、口に煙草を銜えている。〔75人：○68人 ?4人 ??0人 ×3人〕
- 24、口には煙草を銜えている。〔75人：○33人 ?19人 ??12 ×11人〕
- 25、彼女は髪の毛に簪を挿している。〔75人：○70人?3人 ??2人 ×0人〕
- 26、彼女の髪の毛に簪を挿している。〔75人：○42人 ?20人 ??6人 ×7人〕
- 27、彼女の髪の毛には簪が挿してある。〔75人：○68人 ?5人 ??2人 ×0人〕
- 28、彼は手でバックを持っている。〔75人：○54人 ?18人 ??2人 ×1人〕
- 29、彼は手にバックを持っている。〔75人：○69人 ?5人 ??1人 ×0人〕
- 30、彼の口には煙草が銜えられる。〔75人：○40人 ?22人 ?9人 ×4人〕

- 31、庭に雑草が生えている。〔80人:○80人 ?0人 ??0人 ×0人〕
- 32、庭には雑草が生えている。〔80人:○58人 ?19人 ??2人 ×1人〕
- 33、庭には雑草が生えてある。〔80人:○0人 ?8人 ??26人 ×46人〕
- 34、庭には雑草が生えられている。〔80人:○0人 ?0人 ??14人 ×66人〕
- 35、溝に落ち葉が溜まっている。〔80人:○78人 ?0人 ??1人 ×1人〕
- 36、溝には落ち葉が溜まっている。〔80人:○70人 ?10人 ??0人 ×0人〕
- 37、溝には落ち葉が溜められている。〔80人:○24人 ?26人 ??19人 ×11人〕
- 38、溝には落ち葉が溜めてある。〔80人:○34人 ?28人 ??13人 ×5人〕
- 39、庭には枝が垂れている。〔80人:○30人 ?31人 ??14人 ×5人〕
- 40、軒から雨だれが垂れている。〔80人:○44人 ?17人 ??13人 ×6人〕
- 41、目に涙が滲んでいる。〔80人:○71人 ?9人 ??0人 ×0人〕
- 42、目から涙が滲んでいる。〔80人:○8人 ?24人 ??23人 ×25人〕
- 43、目から涙が垂れている。〔80人:○17人 ?21人 ??28人 ×14人〕
- 44、胸には花の模様を刺繍している。〔80人:○28人 ?28人 ??16人 ×8人〕
- 45、胸には花の模様が刺繍してある。〔80人:○75人 ?3人 ??0人 ×2人〕
- 46、胸に花の模様が刺繍されている。〔80人:○80人 ?0人 ??0人 ×0人〕
- 47、石碑には文字が刻まれている。〔80人:○73人 ?6人 ??0人 ×1人〕
- 48、石碑には文字が刻んでいる。〔80人:○1人 ?7人 ??28人 ×44人〕
- 49、石碑には文字を刻んでいる。〔80人:○23人 ?26人 ??20人 ×11人〕
- 50、道端には桜の花が咲いている。〔80人:○73人 ?7人 ??0人 ×0人〕
- 51、シャツには会社のマークが印してある。
〔80人:○66人 ?11人 ??2人 ×1人〕
- 52、シャツには会社のマークが印されている。
〔80人:○76人 ?4人 ??0人 ×0人〕
- 53、シャツには会社のマークを印している。
〔80人:○41人 ?23人 ??9人 ×7人〕
- 54、シャツには会社のマークが塗られてある。
〔80人:○10人 ?12人 ??26人 ×32人〕
- 55、パンにはジャムが塗られている。〔80人:○68人 ?10人 ??1人 ×1人〕
- 56、パンにはジャムを塗っている。〔80人:○38人 ?16人 ??18人 ×8人〕

- 57、パンにはジャムが塗られてある。〔80人：○40人 ?20人 ??10人 ×10人〕
- 58、石碑には文字が刻まれてある。〔80人：○24人 ?34人 ??11人 ×11人〕
- 59、パンにはジャムが塗ってある。〔80人：○75人 ?4人 ??0人 ×1人〕
- 60、胸に花の模様が刺繍されてある。〔80人：○23人 ?21人 ??20人 ×16人〕
- 61、ご飯を食べながらテレビを見ている。〔66人：○63人 ?3人 ??0人 ×0人〕
- 62、お茶を飲みながら雑談している。〔66人：○63人 ?3人 ??0人 ×0人〕
- 63、ご飯をたべていながらテレビを見ている。
〔66人：○11人 ?29人 ??15人 ×11人〕
- 64、お茶を飲んでいながら雑談している。
〔66人：○2人 ?23人 ??25人 ×16人〕
- 65、ご飯を食べていながらテレビを見る。
〔66人：○4人 ?27人 ??23人 ×12人〕
- 66、お茶を飲んでいながら雑談する。〔66人：○2人 ?24人 ??22人 ×18人〕
- 67、ご飯を食べているままテレビを見ている。
〔66人：○4人 ?17人 ??20人 ×25人〕
- 68、お茶を飲んでいながら雑談している。
〔66人：○0人 ?19人 ??18人 ×29人〕
- 69、ご飯を食べたままテレビを見ている。
〔66人：○22人 ?20人 ??12人 ×12人〕
- 70、お茶を飲んだまま雑談している。〔66人：○16人 ?20人 ??16人 ×14人〕
- 71、立ったままテレビを見ている。〔66人：○65人 ?1人 ??0人 ×0人〕
- 72、座ったまま雑談している。〔66人：○61人 ?5人 ??0人 ×0人〕
- 73、立っているままテレビを見ている。〔66人：○4人 ?28人 ??19人 ×15人〕
- 74、座っているまま雑談している。〔66人：○3人 ?27人 ??22人 ×14人〕
- 75、立ちながらテレビを見ている。〔66人：○55人 ?8人 ??3人 ×0人〕
- 76、座りながら雑談している。〔66人：○55人 ?9人 ??2人 ×0人〕
- 77、立ってテレビを見ている。〔66人：○66人 ?0人 ??0人 ×0人〕
- 78、座って雑談している。〔66人：○66人 ?0人 ??0人 ×0人〕
- 79、立った状態でテレビを見ている。〔66人：○51人 ?12人 ??2人 ×1人〕
- 80、座った状態で雑談している。〔66人：○52人 ?11人 ??2人 ×1人〕

参考文献

中国語

- 北京大学中文系 1955・1957 级语言班编(1982)《现代汉语虚词例释》商务印书馆
- 陈平(1988)「论现代汉语时间系统的三元结构」《中国语文》第六期
- 戴耀晶(1997)《现代汉语时体系统研究》浙江教育出版社
- 房玉清(1992)《实用汉语语法》北京语言学院出版社
- 豊嶋裕子(2008)「“一边 A 一边 B” と「P ながら Q」についての一考察」『日中言語対照研究論集』第 10 号
- 洪安澜(2014)「存在文における“着”、“了”交代現象に関する一考察」『研究会報告・連語論研究<Ⅲ>』第 36 号日本語文法研究会
- 金立鑫(2004)「“着”“了”“过”时体意义的对立及其句法条件」《第七届国际汉语教学讨论会论文选》北京大学出版社
- 李临定(1984)《现代汉语句型》商务印书馆
- 刘一之(2001)《北京话中的“着”(zhe)字新探》北京大学出版社
- 吕叔湘主编(1984)《现代汉语八百词》商务印书馆
- 三宅登之(2005)「“一边 V1, 一边 V2” と“V1 着 V2” の関係について」『現代中国語文法研究論集』大東文化大学
- 王学群(2007)『中国語の“V 着”に関する研究』白帝社
- 吴卸耀(2006)《现代汉语存现句》学林出版社
- 张黎(2012)《汉语意合语法研究——基于认知类型和语言逻辑的建构》白帝社
- 张岩红(2006)「“V1 着 V2” と“一边 V1 一边 V2” との関係について」『日中言語対照研究論集』第 8 号

日本語

- 飯嶋美知子(2004)「結果継続表現の日中対照研究—「他動詞の受身+テイル」と中国語の存在文、受身文—」『早稲田大学日本語教育研究』4 号
- 奥田靖雄(1977)「アスペクトの研究をめぐって—金田一的段階—」『宮城教育大学国語国文』8
- 金田一春彦(1950)「国語動詞の一分類」金田一春彦編(1976)『日本語動詞のアスペク

ト』むぎ書房

工藤真由美(1982)「シテイル形式の意味記述」武蔵大学『人文学会雑誌』13巻4号

杉村 泰(1996)「テアル構文の意味分析—その「意図性」の観点から—」『名古屋大学
人文・社会研究』第25号

寺村秀夫(1982・2003)『日本語のシンタクスと意味』Ⅱくろしお出版

中島孝幸(1999)「結果を表す構文について：テイルとラレテイル」『三重大学日本語
学文学』10号

仁田義雄(1982)「動詞の意味と構文——テンス・アスペクトをめぐって——」『日本
語学』1巻2号

三宅知宏(1996)「～ナガラと～タママと～テ—付帯状況の表現—」宮島達夫・仁田義
雄編(1996)『日本語類義表現の文法』(下)くろしお出版

吉川武時(1976)「現代日本語動詞のアスペクトの研究」金田一春彦編(1976)『日本語
動詞のアスペクト』むぎ書房

吉川妙子(2012)『日本語動詞テ形のアスペクト』晃洋書房

謝辞：本研究は2015年8月に中国上海外国語大学で開催された第七回中日対照言語学シンポジウムの分科会において口頭発表した原稿をもとに加筆修正したものである。この場を借りて、当日会場内で司会の方をはじめご質問やご発言を賜った方々に感謝の意を表する次第である。また、本研究の日本語の表現についてご指導を頂いた愛媛大学元教授で書道家である菊川國夫先生に厚くお礼を申し上げる。